ENGAGE ROTARY
CHANGE LIVES
ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を
2013-14年度 国際ロータリー・テーマ

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

NO.1205 平成 25 年 10 月 29 日

◆例会日/週火曜日 12:30～13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
TEL 0267-23-8125 FAX 0267-23-2788

2013-2014 役員

◆会　　長 / 小林 秋生　◆副　会　長 / 渡辺 文夫
◆幹　　事 / 清水 良英　◆ｸﾗﾌﾞ広報･情報委員長 / 矢島 栄一

◆点鐘　小林 秋生 会長
◆SAA　渡辺 文夫 委員
◆ｿﾝｸﾞ　我らの生業

【会長挨拶】 小林秋生 会長

この 10 月は台風がいくつも来て、伊豆大島をはじめ、あちこちに大変な被害を生じています。本来 10 月は、好天に恵まれる月である筈なのに、やはり異常気象の一端なのでしょうか。今年の夏はことのほか暑く、予報では寒い冬になるとのことであります。一昨日長期予報が出て、今週は好天が続くようですが、来週からは朝夕の冷え込みも増して、晩秋に入っていくようです。

11 月は平年並か少し低温で、12 月から寒さ厳しい冬になって行くようです。季節の変わり目です。皆さん体調に気を付けてお過ごし下さい。

先週は合同夜間例会が無事終了致しました。準備運営を担ったクラブ運営委員の皆さん、大変ご苦労様でございました。来週からは 11 月のイベント、京都旅行に向って、また準備が進められることと存じます。現在参加募集が進行中でありますが、どうぞ大勢のご参加をお願い申し上げるところでございます。

さて、東日本大震災が起きてから 2 年半が過ぎますが、復興の進捗度が仲々上がらず大変なのが現実のようであります。今からお話しをするのは、岩手県のことでありますが、私が過日お話をした宗教学者の山折哲雄先生の出身が花巻であります。山折先生のご実家のすぐそばに、宮沢賢治の生家があります。この宮沢賢治の考え方、あるいは表した文学の精神が岩手三陸の震災復興の最近の考え方に影響を及ぼし始めているとのことであります。個の向上、あるいは一部の向上があってもそれは幸せではない。「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ」この詩のイデオロギーのように、個を抑えて社会全体を見て行くと言う奉仕の心が復興の精神であると言うことです。まさに超我の奉仕ではないでしょうか。

宮沢賢治には二才下の妹がありました。名前はトシと言って大変優秀で東京の女子大に進みますが、体が弱く、途中で花巻に戻り女学校に先生になります。このトシが賢治の生き方や文学の一番の理解者であったようです。ところがトシは 1922 年 11 月、肺炎を煩らい、賢治は寝ずの看病をしたのですが、その甲斐なくこの世を去ります。賢治は大変悲嘆にくれ、北海道から樺太への一人旅に出掛けます。この時から「オホーツクの挽歌」など彼の代表的な文学が続々と生まれております。

賢治は明治の三陸地震･大津波の年（1896 年）に生れ、昭和の三陸地震･大津波の年（1933 年）に亡くなっています。二つの大災害の間に彼の一生があったわけであります。さらにこの時代、東北の農村は冷害と旱魃で疲弊していました。37 才の短い人生でありましたが、まさに農民のために捧げた奉仕の一生でもありました。「ミンナニデクノボウトヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、サウイフモノニ、ワタシハナリタイ」。とても仲々なれるものではありませんが、皆さんいかがでありましょうか。それにしても大震災、忘れずに協力して復興を加速せねばならないと思います。以上会長のお話しと致します。

【幹事報告】 清水良英 幹事

1. 宮坂ガバナーより地区大会礼状
2. 第 2530 地区「会津の里にこらんしょ」
   開催期間延長について
   11 月 30 日まで延長
3. 例会変更
   上田西RC
   11 月 14 日（木）赤松小三郎顕彰例会の為
   定刻受付なし
   11 月 28 日（木）定款による休会
   定刻受付あり
4. 週報
   丸子、上田西RC

･来週、「ダメ･ゼッタイ」薬物乱用根絶運動募金 500 円以上をお願いします。

本日の配布物

週報 1203･1204 号、理事会報告、
地区大会冊子

【委員会報告】

クラブ運営委員会　依田晋一郎委員長
～親睦家族旅行　･クリスマス家族例会
について～

プログラム委員会　橋詰希望委員長
～プログラムの変更について～
11 月 5 日　小島会員の自己小伝
11 月 12 日　職場例会
11 月 19 日　ロータリー月間に寄せて

◆ラッキー賞

NO 18　渡辺 頼雄 君

◆ニコボックス　矢島英夫 委員

黒田説成君	秋の藍綬褒章をいただくことになりました。クラブのプログラムには迷惑をおかけします。
小林秋生君	親睦家族旅行が来月に迫りました。たくさんのご参加を切望致します。
矢島英夫君	係としてニコ BOX します。
橋詰希望君	息子･智章が 26 日東京で結婚式を挙げました。台風がそれて助かりました。
小島 勝君	入会させていただき、1ヵ月となります。これからも、よろしくお願いします。クラブ運営委員会に所属となります。
青松英和君	橋詰さん、黒田さん、おめでとうございます。
西川 宏君	11/5、11/12、11/19 職業奉仕のため休みます。
神津恭通君	黒田さん褒章受章おめでとうございます。
渡辺頼雄君	ラッキー賞ありがとうございました。

次週のプログラム ： 自己小伝（小島会員） ／ 次々週のプログラム ： 職場例会

【出席報告】　橋詰 希望 委員

	会員数	出席	M･U	欠席	出席率
本　日　10 月 29 日	25	21	事前 1 名	4	84.00%
前々回　10 月 8 日	24	21	事後 2 名	3	87.50%

【本日のプログラム】　10 月 20 日の地区大会報告会

【報告者】 渡辺 文夫 会員
「地区大会全般のこと」

私は、雨の中を集合場所の竹内駐車場に 7 時 15 分前にいきました所、誰一人来ていません。10 分以上待って見ましたが来ませんので、一瞬集合場所を間違えたのではないかと思い、駅の方に行きかけたところ、ミレニアム観光の小型バス来ましたのでほっとして、乗り込む時に運転手さんに、「来るのが少々遅いのではないか」と苦言を言いました。

運転手いわく、「私は 7 時に来る様に言われております」とのこと時計を見ましたら 7 時 1 分前でした。ちょうど 7 時ごろ小林会長が、また 7 時 4 分頃には清水幹事が到着したので、内心集まりが悪いなと思い「何人参加するのか」清水幹事に聞きましたところ「5 人参加で、後小池先生と黒澤さんが来れば全員です」との返事。少々あきれましたが、バスの運転手さんも 5 人乗者は始めてだと云う始末、定刻少し前に全員揃い出発しました。

松本の会場ホテルブエナビスタ到着は定刻少し前でしたが、結構大勢の人が居り活気に満ちていました。エスカレーターで 3 階の友愛広場へ上がって行きましたら、小諸ロータリーの高木ガバナー補佐に会いましたので「小諸は何人参加ですか」と聞きましたら、引きつった赤い顔で開口一番「うちは新井幹事一人だけの参加です」とのこと。小諸商工会議所創立 100 周年及び新商工会議所竣工式等々の行事が重

なったことが、小諸地区の出席者減少の原因と自分なりに理解いたしましたが、全員参加が基本なので残念ながら少なすぎます。次回はどうかご都合いただき大勢の参加をご期待します。

開会前に会場正面の演台の所で信州大学生ヨサコイグループ（和っしょい）による踊りがあり、このグループは名古屋で開催された「日本ど真ん中まつり」に参加２００チームの中で最高賞である「大賞」を受賞、その他仙台等日本各地のお祭りに参加して高い評価を得ているとの事です。

いよいよ本会議が始まりましたが、会議の内容はワンパターンですので省略致します。

昼食後、演台であずみ野ジュニアフルートアンサンブル「ハピネス」の演奏を聴きましたが、繊細な音だけでなく力強い響きで聴き応えある演奏でした。クラッシックから民謡、歌謡曲にいたるまで様々なジャンルの音楽を楽しませてもらいました。

その後青少年アワーとして米山奨学生、インターアクト、ローターアクト、ライラ等の自己紹介、それぞれの卓話がありました。青少年アワー終了後メイエベントの記念講演がありました。記念講演の内容についてはこのあと清水幹事より詳しくご説明いたします。

我々一同は、記念講演の後時間の関係で第 2 回本会議をやむなく欠席し各自書類をまとめて帰路に着きました。以上

【報告者】 清水　良英　会員

「記念講演について」

「人生は 8 合目からがおもしろい」との演題で登山家の田部井淳子さんのお話をお聞きしました。今日はほんの一部ですが印象に残ったところをご報告いたします。

まず田部井さんのプロフィールを紹介します。1939 年 9 月福島県三春町生まれの 74 歳、1975 年、女性として世界初、世界最高峰エベレスト登頂に成功。その後 1992 年には、女性世界初の 7 大陸最高峰登頂者に。エベレスト登頂時にはネパール王国から最高勲章グルカ･ダクシン･バフ賞を受賞。国内でも文部省スポーツ功労賞、内閣総理大臣賞、07 年には環境大臣賞など、数々の表彰を受け歴史に残る世界的な女性登山家の一人。現在も年数回、海外登山に出かけ、これまでに 65 か国の最高峰･最高地点を登頂しています。

まず話はＮＨＫで 2009 年に放送された「夏の北アルプス　あぁ絶景！雲上のアドベンチャー」の話から始まりました。この番組は田部井淳子さんと、登山歴の浅い、NHK アナウンサー内多勝康氏が北アルプスの難ルートに挑戦する冒険の旅。立山から、日本最後の秘境といわれる雲ノ平、槍ヶ岳、そして穂高連峰のジャンダルムまでの 60 キロを、3 週間かけて縦走したときのドキュメンタリー番組でした。カメラ 3 台を使って大規模な撮影が行われたこと。好きな登山をしてギャラがもらえて大満足であったこと。ハードであったため腰が引けていた内多アナが段々たくましくなっていったエピソードなどを楽しくお話頂きました。

そんななかで中高年の登山の話になり、最近の登山用品の機能アップは目を見張るものがあり、2009 年に大雪山系トムラウシでおきた遭難事故においても生死を分けたものは雨具と下着の性能によるところが大きかったようです。登山をされる方、そこにはお金をかけて下さいね。

また田部井さんは福島県の出身ということで復興支援にも熱心で、被災者と共にハイキングを企画したことや、福島県の高校生 60 名を富士吉田の高校生 30 名とともに全員富士山登頂させたことの話がありました。この高校生の富士山登山は今年も実施され、参加した 74 名全員が登頂することができたそうです。また著書の印税の一部を東日本大震災の義援金として寄付しています。

次に話はテーマでもある「人生の 8 合目」からの話題に移りました。いずれ死を迎えた時に「あー、楽しかった！」と思いたいと強く願った田部井さんが今現在チャレンジ中なのが各国の最高峰に登頂することです。今年も 7 か国の最高峰登頂を果たし、累計で 65 か国を達成したそうです。今でも年間 150 日は山で過ごしているそうですが、残りの 200 日も決してじっとしているわけではありません。「怖いもの知らずの女たち」と銘打って、PR 会社社長、弁護士、元タカラジェンヌ、セブン･イレブンの役員、ロレックスの広報担当者という 6 人が、シャンソンのコンサートを開きたいという「夢」を実現させた時の話がありました。本当にエネルギッシュな人ですね。

最後にスライドを見せて頂きましたが、エベレストとは測量技師の名前でネパール名：サガルマータ、中国名：チョモランマであること。ネパール側と中国側ではまるで違う山のように見えること。1975 年はきれいであったエベレストが今は過剰な人数の登頂によってゴミだらけになっていること等が深く印象に残りました。

74 歳とは思えないとても元気な田部井さんから「パワー」をもらえた講演でした。